「上野の杜から（4）」

馬券を売らない競馬場のお話

西郷さんの銅像が上野公園の象徴ならば、蓮（はす）の花咲く不忍池（しのばずのいけ）は、都心のオアシスであり、プロムナードでしょうか。ところで、かつてここから馬の嘶（いなな）きが聞こえてきた時があった、と言うと「えっ？」と不思議に思われる方が多いと思います。

時は明治12年（1879）、小松宮彰仁親王（こまつのみやあきひと）を社長に戴き、共同競馬会社なるものが設立されました。この会社は巨額の資金を投入し、不忍池周辺を整備して競馬場を造り上げたのです。余談ですが、上野公園の一角には、馬上姿もりりしい小松宮殿下の像が、今もあたりを睥睨（へいげい）しております。

現在の競馬場と比較することは無理があろうかと思いますが、競馬場のコースは、幅22メートル、不忍池を左回りに1周1600メートルほどに設計されていたようです。



梅盛香得画「上野公園地不忍池弁天競馬之図」
（台東区立中央図書館蔵）
明治天皇が皇后を伴って観戦されている御姿が描かれている。

メインスタンドにあたる馬見所は、上野動物園の西園あたり、ここに天皇の玉座を中心に外国の大使、公使や政府高官が夫人を伴って観戦しました。ちなみに一般の人々はコースの外柵際の桟敷（さじき）席で観戦することが出来たそうです。

明治17年11月1日、第1回「不忍池競馬」は、明治天皇をお迎えして華（ろくめいかん）やかに開催されました。この競馬は年2回、春と夏に3日間の開催でした。当時は鹿鳴館時代の最盛期で、なにごとも西欧に追いつき、追い越せが国是だったのです。それゆえ、「マイフェアレディ」に登場するイギリスのアスコット競馬場のように、この競馬場は貴族や政府高官や財界人などが集（つど）う高級社交場でありました。

会社のスタンスがこうでしたから、競馬自体にギャンブルとしての意味をもたせなかったのです。ということで、勝ち馬投票券、つまり馬券の発券はなかったのです。



しかし、蛇の道は蛇で、個人個人で賭けは成立させていたようです。経営難のため上野不忍池競馬が幕を閉じたのは、明治25年（1892）のことでした。

今、池のほとりに立って過去を偲んだ時、はたしてここに競馬場が発展的に存在していた方が良かったのか、否か、皆さまはいかがでしょうか。